令和８年度　第２回　飯田小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和８年９月１５日（火）　１３時３５分から１５時１５分まで
２　開 催 場 所　　飯田小学校　校長室
３　出 席 委 員　　杉山邦司、露木里江子、小野逸子、白井竜之、鈴木美枝子、黒田真也、鈴木大輔、廣瀬亜紀子
４　欠 席 委 員　　なし
５　オブザーバー　　神谷匠（東部協働センター）
６　学　　校　　井上純子（校長）、町田全広（教頭）、鈴木卓（ＣＳ担当）小林知美（ＣＳディレクター）
７　教育委員会　　林亮吾（学校・地域連携課）
８　傍　聴　者　　なし
９　会議録作成者　　ＣＳディレクター　小林知美
10　議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から鈴木大輔委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11　協 議 事 項

（１）授業参観での子供たちの様子について
（２）前期の学校評価について
（３）今後の取組、支援策

12　会 議 記 録

司会の教頭から委員総数８人のうち８人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

（１）授業参観での子供たちの様子について

議長から、参観した子供たちの様子について意見を求めたところ、委員からは、以下の発言があった。

・　５、６年生は、落ち着いて学習していてよかった。１年生も半年前と違い、みんな落ち着いていて成長を感じた。子供の方からあいさつしてくれた。（杉山委員）
・　グランドデザインにある目標について、一貫して学校から子供たちに話してくれているため、子供たちの成長している姿が見られた。（露木委員）
・　おおぞら学級は、一人の先生が異なる学年の子供たちを教えていて大変。一人一人に対応していて素晴らしい。（鈴木美委員）
・　一人ずつ発表させたり、対話させたりと自発的に発言できる授業で、昔の自分のイメージする授業と違ってとても良い。子供が発言しやすいと感じた。（黒田委員）
・　１、５、６年生を観たが、前回の参観より、全体的に落ち着いていた。（小野委員）
・　小学校の授業がハイレベルになっている。色々な情報を与え自主的に学べるための種まきだと思った。靴箱を見たが、概ね揃っていて落ち着いて生活できている。靴を入れる時、確認しない子が、確認できるようになるといい。（白井委員）
・　タブレットを使った授業をしているクラスは、３，４クラスで、個人個人で調べている感じだった。みんなとつながり先生ともつながりながら、もっと使って授業をやっていけるといい。（廣瀬委員）
・　靴の入れ方など家庭に繋がっている。生かせるところは生かし、温かい環境作りをしたい。（鈴木大委員）
・　先生は、子供の反応を見ながら授業を進めていて、子供たちは、落ち着いていた。（神谷オブザーバー）

（２）前期の学校評価について

教頭から資料に基づき、前期の学校評価についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

・　自然に挨拶ができて嬉しいし、素晴らしい。方針が行き届いていると思う。（杉山委員）
・　全体的に素晴らしい。「飯田小に通うのが楽しい」と思わない児童と「飯田小は働く喜びのある学校」とあまり思わない先生が同じクラスだと負のスパイラルになってしまわないか心配である。どの項目も「思わない」に印をつけた児童が学校に来れなくなるか心配。注視してほしい。保護者で、「主体的に学ぶことができるように支援している」のはいい。（露木委員）
・　児童のきれいな言葉でそう思うが 41%、保護者が 27%、教員が 53%を見ると、（教員＋保護者）÷2＝児童の%

になっているみたい。原因がどこにあるか見えてくるように思う。（鈴木美委員）

- 保護者の「健康に気を付けて生活」は、いいほうだと思う。ゲームは、子供の反発や、オンラインで友達とやっていて終わり方がなかなか難しい。家庭ごとに、お互いに守れるルールをしっかり作っていけばいいかもしれない。（黒田委員）
- 児童の「学校のルール」で靴の整理整頓とか、家庭でどういうふうに教えているかが学校で現れてくる。やはり家庭だなと思う。時代が違い、遊ぶ道具も違っていて難しい時代になっている。家庭内のルールを作り、ひとつひとつ丁寧に子供に教え、手をかけていかなければいけない。（小野委員）
- 「交通マナー」で、歩道のある所は、歩道を歩いてほしい。児童の「飯田小に通うのが楽しい」が気になる。「思わない」を選んでいる子が、せめて「あまり思わない」を選べるようになってほしい。（白井委員）
- どの項目も保護者で「支援していると思わない」を選んでいる人は、何を思って子育てしているのか知りたい。児童の「思わない」は、各項目、全部違う子なのか、同じ子なのか気になる。否定的な評価を選ぶ子は心に余裕がないと思う。生きることは楽しいと思ってほしい。地域も含め、大人がそういう子に何ができるか考えていきたい。（廣瀬委員）
- 先生方は頑張ってくれている。「思わない」を選ぶ子は、分かっていて選んでいるのかもしれないし、わざとかもしれない。気を付けて見てほしい。子どもを健やかに育てていく環境作りの為、地域・家庭・学校をどうつなげていくか、どう支援していくのか、考え協力していきたい。（鈴木大委員）
- 家庭教育は大切。児童の「言葉遣い」は、ユーチューブやゲームなどで刺激のある言葉に影響されているところもある。親が放置しないで、守れる条件を作り、見守る。ただ、ゲームに参加しないと、はぶせにされるかもという不安感もあり、もどかしい。（神谷オブザーバー）
- いじめは一年生からあるのか？（鈴木美委員）
- いじめの定義によると、一定の関係にある児童の行為を辛いと思うといじめになる。その都度対応し解決して見守っている。（校長）

（３）今後の取組、支援策

教頭から資料に基づき、今後の取組、支援策の推進についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- 名前の呼び方で「さん」づけは、親しい友達でもつけるのか？友達と遊ぶ時はいいかなと思う。（杉山委員）
- 「さん」をつける、つけないでその後の言葉遣いが変わる。呼び捨ての時は、言葉遣いが荒くなりやすい。「さん」をつけると、優しい言い方になりやすい。（校長）
- ４年生で、タブレットのカルテを活用というのは、個々に活用しているのかな。４年生の活用の仕方がうまくいっているのなら、学年を超えて共有できたらいいと思う。（露木委員）
- 飯田小は、生活面を強化し、サポートしてくれていると感じる。いろいろな人がいて、それぞれ思考のスピードが違う。一呼吸おいて話したり、聞いたりできるといい。（鈴木美委員）
- 突発的に話す言葉遣いが悪い。大人も子供も一呼吸おいて話すことを心掛けたり、黙想の時間を大切にしたりすれば、言葉遣いが変わるかもしれない。ドパガキ（ドーパミン中毒のガキ）という言葉がある。ゲーム・動画等からの影響が大きい。時代に合った教育が必要だと思う。（黒田委員）
- 大人は、子供に一拍おいて注意するといいと思う。（小野委員）
- もっとタブレット等を活用し、子供たちの勉強の底上げとしてうまく活用できるといい。（白井委員）
- 大人も子供も余裕がないと、だめだと思う。先生が足りない。もっと増やしてほしい。先生・親・子供の余裕ができれば、人に優しくできる。教育講演会がもっとあったらいい。しかし、聞いてほしい人は、来ない現状がある。（廣瀬委員）
- 世の中、進むスピードが速く感じる。ゆっくり、あきらめずにやっていくことが大事。教育委員会に先生を増やすようにお願いしたい。（鈴木大委員）
- ＰＴＡのあいさつ運動は、自分の自宅付近でも出来るので、いい取り組みだと思う。（神谷オブザーバー）

その他報告事項等

- ＣＳコーディネーターより、いいだいなほ応援団の活動報告があった。
- ＰＴＡより、あいさつ運動を開催する旨の報告があった。
- 教頭より、運営委員候補者の選定について相談にのってほしい旨の報告があった。第３回会議は、令和８年１１月２６日（木）１３時３０分から校長室で開催する予定である旨の報告があった。